

出題分析		
試験時間 75分	配点 150点	大問数 3題
分量 (昨年比較) [減少] 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化] 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>大問 3 題のうち, [I] 飛鳥～鎌倉時代の政争, [II] 江戸時代の社会経済, [III] 1930～70 年代の国際関係に関して出題された。昨年復活した文化史に関する出題がなくなり, 史料問題も出題されなかった。設問数は記述問題, 選択問題ともに減少した。</p> <p>全大問を通して, 基本的な知識に加えてやや細かい知識も問われる問題構成であった。記述問題では漢字の表記を誤ることなく確実に得点を重ねておきたい。しかし, 細かい知識が問われ全体的に難度の高かった昨年と比べると, 易化したといえるだろう。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
[I]	飛鳥～鎌倉時代の政争	<p>教科書本文に記載されている内容がほとんどであり, 漢字表記を確実にして得点を重ねたい。</p> <p>【設問ウ】 やや細かい知識が問われたが, 藤原仲麻呂が大師にのぼったことは教科書にも掲載されている。【設問オ】 聖武天皇は恭仁京・難波京・紫香楽宮などに都を転々と移したが, 「山背国にあり, 平城京に最も近い」のは恭仁京。【設問キ】 ③: 恵美押勝 (藤原仲麻呂) の乱 (764 年), ④: 橘奈良麻呂の変 (757 年), ⑤: 藤原広嗣の乱 (740 年), ⑥: 長屋王の変 (729 年)。【設問コ】 漢字の表記に注意。</p>	やや易
[II]	江戸時代の社会経済	<p>[I] と同様に教科書本文に記載されている内容が中心であり, ミスなく得点したい。【設問ア】 「大阪」との誤字に注意。【設問ウ・エ・オ】 区別に注意。【設問カ】 江戸の十組問屋と混同しないように。</p> <p>【設問キ・ク】 やや細かい知識が問われた。【設問コ】 (d) 難。【設問サ】 「幕府公用の」から継飛脚となる。【設問シ】 伝馬役と迷ったかもしれないが, 「人馬が不足した際に」 「宿駅近隣の村々に課され」などに着目したい。</p>	標準

設問別講評			
〔Ⅲ〕	1930～70年代の国際関係	歴史総合を意識して出題された問題も一部にみられた。【設問ア】満洲事変は第2次若槻礼次郎内閣のとき。【設問イ】やや難。漢字表記も難しい。【設問ウ】済南事件は1928年の第2次山東出兵中に起こった。【設問オ】漢字表記に注意。【設問キ】2.と4.の選択肢に惑わされるが、独ソ不可侵条約(1939年)は日本史でも学習する知識である。【設問ク】難。2:フランスは1940年にパリを占領され、ドイツに降伏した。【設問セ】やや細かい知識が問われた。	標準

合格のための学習法

今年例年に比べ、基本的な知識が問われる問題がほとんどであったが、同志社大学入試日本史では、例年詳細な知識を求める問題が出題されるため、時代の偏りなく丁寧にしっかり学習しておきたい。また、文化史の学習も怠りなくこなしておきたい。合格に向けてカギを握るのは、教科書内容の精通である。そのうえで、日頃より史料集・図説資料集を活用し、地理的關係や系図を含めた多面的なアプローチで理解を深めておきたい。実践練習として、年度・学部に関係なく可能な限り多くの過去問演習を行おう。過去問に慣れてきたら、本番の試験時間と同じ時間内で解答し、文量の多いリード文が示される中で、いかに時間配分をすべきなのかという感覚を掴んでおきたい。新課程移行に伴い、歴史総合を意識した世界史関連の出題もみられた。今後も続く可能性があるため、世界史関連の内容にも注意を払って対策をしておきたい。